

【開催報告】

Women-trepreneur Compass Program 「Girls Camp」

を開催しました！



2020年度EDGE+R「Girls Camp」は、連携している九州大学や他大学の学生を受け入れた女性対象のワークショップ（WS）を過去2回実施し、今回は3回目の開催となりました。例年同様1泊2日対面での開催予定でしたが、コロナウィルス感染拡大の影響のため完全オンラインにて実施しました。

昨今SDGsを学びに取り入れることや、オンラインの特性を生かしたWS開発が注目されています。持続可能社会の実現に向けては、山積する社会課題に対して、サイエンス、テクノロジーのみならず文化や歴史などの多視点から問題の本質を捉えることが肝要であり、このWSでは「食を通じて未来の暮らし・家族・コミュニティを考える～小麦を練って自分の内面と対峙するパンづくり～」をテーマとし、食べることや作ることを通して自分の生き方を見つめなおし、ライフデザインを考える機会となりました。またイノベーションの観点からみると、多様性の時代の中で人がなにを満足と感じるかの価値観も多様化している中、食の思い出を共有するワークや、小麦を練る作業と参加者同士のコミュニケーションを通じて、自己の内面と対峙しながら価値観を見つめ直すことで内発的動機を考えるきっかけとなりました。

[Girls in Tech Japan](#) キャリアセミナーでは、同メンバーから食品業界関連の女性社会人4名にご登壇いただき、これまでのキャリアや現業務内容、将来の目標・展望などを語っていただきました。多様な生き方のロールモデルとして、参加学生のキャリア選択におけるヒントとなる講演を提供していただき、その後登壇者ごとのブレイクアウトルームに分かれ、学生との交流を行いました。

[株式会社サイエンス](#)からは、「未来の暮らしとテクノロジー」と題し、ファインバブルと未来の生活について語っていただきました。

参加者からは、「Girls In Tech Japan の皆様の講演を聞いて、女性が社会で活躍する場は開かれているが、そこに行くというよりも、自分から切り開いた方が成功していると感じました。挑戦して、出会いを大切にしながらも、自分の道は自分で見つけて開拓しようと思いました。」「グループワークを通して、料理は食べるだけの営みではなく、人と人を繋ぐ対象であると思いました。古典的な概念にとらわれていましたが、食には将来性があり、テクノロジー分野においても希望を持てることが分かりました。食を発展させていながら、持続可能な未来を創るために、今、そしてこれから自分にできることを考えます。」などといった声が聞かれ、オンラインで開催した為海外からの参加者もあり、国際的な交流も見られました。

未来はつくるものであり、どのような未来をつくっていきたいかの意思決定はわたしたちの手に委ねられています。今回はその未来を創造するきっかけを考えるワークショップとなりました。

